

14	岡 崎	奥殿小学校	ムラタ ケイト 氏名 村田 恵瞳
分科会番号	21	分科会名	「特別の教科道徳」特別分科会

1. 研究テーマ 自分自身を見つめ、自ら課題を設定し、よりよい生き方を追究する道徳教育 ～ 小6 「1年後の自分を見据えて」の実践を通して ～

2. 研究概要

(1) 主題設定の理由

本学校は、単学級で構成されており、クラス替えがないため、一人ひとりの仲間意識が強く、互いのつながりが深いところがよさである。5月に行われた生活アンケートでは、「学校は楽しい」という質問に対して、「楽しい」と答えた児童は、91.7%、「だいたい楽しい」と答えた児童は、8.3%であり、学校生活に満足している児童が多いことが分かった。しかし、学級の様子を見てみると、「誰かがやってくれる」と考え、人任せになり、自分から主体的に行動することができない児童が多く見られる。また、自分の役割や可能性を自ら限定してしまい、自分自身と向き合い、自らの課題を見つけようとする姿が十分ではない。さらに、学級目標を決める際には、自己や学級のよさについて挙げることができた一方で、課題を具体的に捉えることが難しく、教師の問い返しを受けながら考える姿が多く伺えた。卒業学年としての自覚が十分ではなく、卒業までの見通しをもち、「卒業までにこんな自分になりたい」という目標を明確に設定して、その実現に向けて努力する姿にも課題が見られた。

このことから、自分自身を見つめ、自ら課題を設定するとともに、その課題の解決に向けて主体的に行動し、よりよい生き方を追究する力を育む必要があると考えた。そこで、本研究では、未来の自分の姿を思い描きながら現在の自分を見つめ直し、自ら課題を設定して、よりよい生き方について考えることを目的として実践に取り組むことにした。

現行の学習指導要領道徳科では、自己を見つめる中で、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができる学習の実現が強く求められている。

そこで、研究主題を「自分自身を見つめ、自ら課題を設定し、よりよい生き方を追究する道徳教育～小6『1年後の自分を見据えて』の実践を通して」と設定し、実践を行っていくこととした。

(2) 目指す児童像

- ① 1年後の自分のなりたい自分の姿を想像し、その実現に向けて自ら課題を設定し、自己を見つめ続けることができる児童
- ② 自己のよさや課題を受け止めながら、よりよい生き方を主体的に追究しようとする児童

(3) 研究の定義

「よりよい生き方」：なりたい自分の姿に近づくための課題を見つけ、一つずつ課題を達成する中で、自己の成長につなげる。

「多面的・多角的に考える」：自分自身のよさや課題を見つめるとともに、保護者や教師など他者の視点や過去・現在・未来の自分という様々な視点から自己を捉え直し、自己の生き方についての考えを深める。

(4) 研究の仮説と手立て

目指す児童像に迫るため、次のように研究の仮説を立て、検証していく。

○仮説1

1年後の自分の姿を想像し、現時点で達成できていることや課題を照らし合わせる場面を設定すれば、多面的・多角的な見方から自らの課題を持ち続ける力を養うことができるだろう。

○仮説2

継続的な振り返りを通して、自分の成長や課題を見つめ、「なりたい自分」と照らし合わせながら目標を見つめ直すことができれば、自ら課題を設定し、よりよい生き方を主体的に追究することができるだろう。

研究の仮説に迫るために、次のような具体的な手立てを用いて、授業を実践していく。

○仮説1に対する手立て

【手立て①】：自己や他者（保護者、教師）の思いを知り、なりたい自分の姿を設定する場面の設定

自己を見つめ、自分のよさや課題を捉えるとともに、保護者や教師の願いや期待に触れることで、多面的・多角的に自己を理解できるようにする。また、その気付きを基に、なりたい自分の姿を明確にし、自ら課題を設定できるようにする。

【手立て②】：児童の実態や課題にあった自作教材の活用や教材を生かした発展的な活動の展開

児童の実態や課題に応じて、教材や学習活動を工夫することで、学習内容を自分事として捉えられるようにし、学習内容を自分事として捉えられるようにし、自分自身を見つめ、自ら課題を設定するとともに、その解決に向けてよりよい生き方を追究できるようにする。

○仮説2に対する手立て

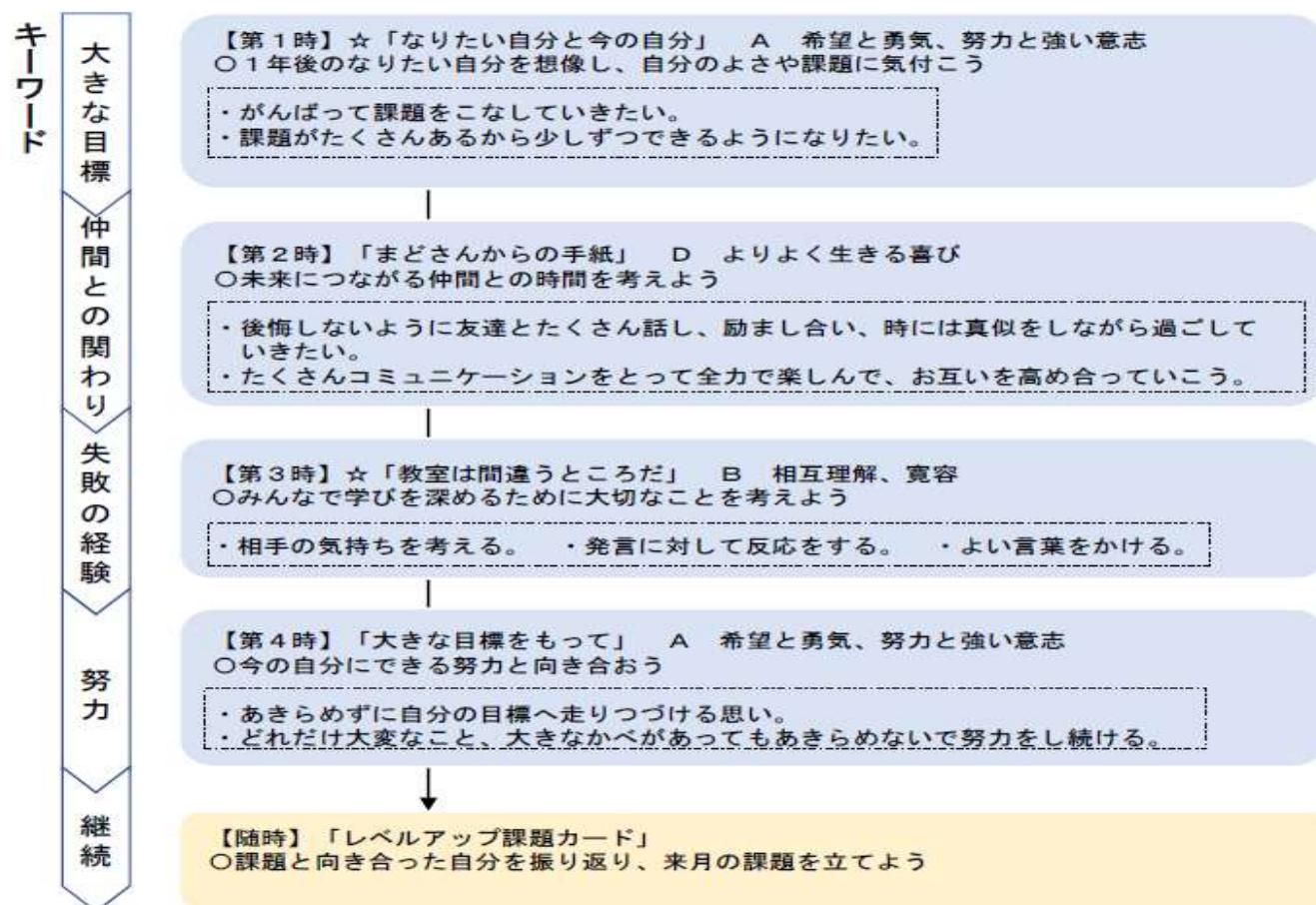
【手立て③】：自己の生き方についての考えを深めるための振り返りの充実

各授業の終末に、その時間の気付きや考えの変容を振り返る時間を設ける。また、毎月の目標については、2週間後と月末に振り返りを行い、「なりたい自分カード」を見返しながら、自分の成長や課題、気付きを整理する。その上で、目標を継続するか、新たな目標を設定するかを考え、自分自身を見つめ直し、よりよい生き方についての考えを深められるようにする。

(5) 単元構想について

単元学習「1年後の自分を見据えて」を資料1のように構想した。

資料1 本研究の単元学習



(6) 抽出児童（児童A、B）の実態と期待する姿

本研究では、児童A、児童Bの変容を追いながら手立ての検証を行っていく。

	日常生活の様子	保護者からの願い	前担任からの願い
児童A	◎自分の思いや考えを恥ずかしがらずに伝え、積極的に発言することができる。 ◎物事を多面的に捉え、多様な意見や考えをもつことができる。 ▲人見知りの様子が見られ、一定の友達と関わることが多い。 ▲気持ちが表情や態度に出やすい。	困ったことや嫌なことがあったとき、だまって不機嫌にならず、自分の言葉で話してほしい。	人の気持ちや今やるべきことをきちんと感じて動ける児童Aのよさをどんどん広げて、声をかけていってほしい。
		【期待する姿】 自分の思いや考えを他者に伝えることのよさに気付き、自分にできることを考えながら、周りを引っ張っていかうとする姿。	
児童B	◎言われたことを真面目に受け止め、最後まで取り組むことができる。 ◎周囲の様子をよく見て、困っている友達にそっと寄り添うことができる。 ▲自ら行動することはできるが、自分から声をかけることに苦手意識がある。	時間を決めて、それを間に合うように誰かに言われなくても自分で行動できる。	周りをよく見ているところ、何でも丁寧なところ、児童Bのよさを学級や学校へも声に出して、行動して広げてほしい。
		【期待する姿】 気付いたことや考えたことを積極的に周りに伝え、自ら進んで働きかける姿。	

3. 実践と考察

第1時☆「なりたい自分と今の自分」の実践【手立て①】

まず、最初から完璧な人はいないということを伝えるために、資料2を提示し、自己や他者の観点から努力を積み重ねてきたことを紹介した。これにより、目標をもち、挑戦し続けることの大切さを実感できるようにした。次に、資料3を提示しながら、「AとBではどちらの方が目標を意識しやすいか」と問いかけた。単に目標を決めるのではなく、気持ちや具体的な行動を踏まえて目標を明確に示すことで、自分が目指す姿をより具体的にイメージできるようにした。

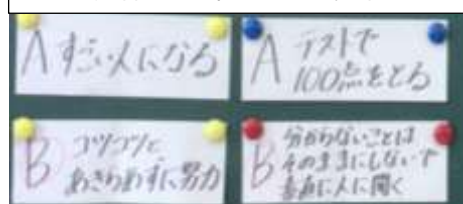
その後、実際になりたい未来像を考える時間を設けた【手立て①】。その際、自分自身を見つめることができるよう、自分のよさと課題を整理させた。資料4を見ると、児童Aは、よさとして「仲良くなればたくさん話することができる」ことを挙げる一方、「積極的に話しかけることができない」「相手の気持ちを想像する力が十分ではないこと」を課題として挙げ、他者との関わりに着目して自己を捉えていた。

また、「やるときめたことはやり通すことができる」というよさがある一方で、「調子に乗ってしまう」という課題も挙げており、自分のよさと表裏一体となる課題についても見つめることができた。児童Bは「代表委員に立候補しようと思えたこと」「前より多く発言できていること」「みんなのお手本になれるよう、挨拶を大きくなどがんばっていること」をよさとして挙げた。一方で、「発言をもっと増やす」「自信をもって発表する」「時間を見て、周りの子に伝え自分から行動する」などの課題も挙げていた。現在の自分の姿に満足することなく、さらによりよい自分を目指すための課題を主体的に見出していた。そして、他者の視点を取り入れるために、「1年後こんな風に成長してほしいな」という保護者や前担任からの思いを伝えた。すると、「自分の課題と一緒にだった」「やっぱりこんな風に思っていた」など、自分の考えと他者と思いを関連付けながら自己を捉える姿が見られた。その後、他者からの見方を踏まえて自己を見つめ直し、自分のよさや課題を加筆する時間を設けた。保護者や前担任の思いを受け止め、児童Aは「だまらない」「自分から声をかける」と新たな課題を書き加えた。また、児童Bは、「やりたいことの時間をしっかり決めて間に合うように自分から行動」「学級や学校の思いを声に出して行動」と加筆していた。このことから、自分では気付かなかった課題を他者の視点を通して新たな視点から捉えることができたと考えられる。自己のよさや課題と向き合ったことを確認した後、「1年後の自分はどんな風になりたい」と問いかけ【手立て③】、自分自身で大きな目標を立てる場を設定した。すると、児童Aは「他者との関わりを深め、どのような人とでも、たくさん話し、仲良くなろうとする」児童Bは、「たくさんのことに挑戦する」と書き記した。児童A、Bともに、自己を見つめることで、自ら課題を設定し、その課題を踏まえながらよりよい生き方を実現するための目標を具体的に考えることができた。

資料2 3人の有名人の紹介



資料3 目標カードの見本



資料4 なりたい自分カード

児童A

1年後こうなりたいな...!

— 未来を想像し、今の自分を見つめよう —

名前: _____

よさ: 仲良くなれば、たくさん話しかけることができる。相手の気持ちを想像する力が十分ではないこと。

課題: 積極的に話しかけることができない。相手の気持ちを想像する力が十分ではないこと。

未来像: たくさん話しかけることができる。相手の気持ちを想像する力が十分ではないこと。

線より下
→ 保護者や前担任の思いを受け加筆した課題

「1年後こんな風に成長してほしいな」保護者からの思い
国・地方や職業などがあるとき、たまたま不機嫌にならず、自分の言葉でしっかりと話してほしい。

「1年後こんな風に成長してほしいな」前担任からの思い
人の気持ちや今やるべきことをきちんと感じて動ける。人の話をよく聞いて、何をどうするか。自分の良さを活かして、学級や学校へ声を出して、行動して広げてほしい。

児童B

1年後こうなりたいな...!

— 未来を想像し、今の自分を見つめよう —

名前: _____

よさ: 前より多く発言できていること。みんなのお手本になれるよう、挨拶を大きくなどがんばっていること。

課題: 発言をもっと増やす。自信をもって発表する。時間を見て、周りの子に伝え自分から行動する。

未来像: たくさん話しかけることができる。相手の気持ちを想像する力が十分ではないこと。

線より下
→ 保護者や前担任の思いを受け加筆した課題

「1年後こんな風に成長してほしいな」保護者からの思い
国・地方や職業などがあるとき、たまたま不機嫌にならず、自分の言葉でしっかりと話してほしい。

「1年後こんな風に成長してほしいな」前担任からの思い
人の気持ちや今やるべきことをきちんと感じて動ける。人の話をよく聞いて、何をどうするか。自分の良さを活かして、学級や学校へ声を出して、行動して広げてほしい。

保護者の思い

「1年後こんな風に成長してほしいな」保護者からの思い
国・地方や職業などがあるとき、たまたま不機嫌にならず、自分の言葉でしっかりと話してほしい。

前担任の思い

「1年後こんな風に成長してほしいな」前担任からの思い
人の気持ちや今やるべきことをきちんと感じて動ける。人の話をよく聞いて、何をどうするか。自分の良さを活かして、学級や学校へ声を出して、行動して広げてほしい。

第2時「まどさんからの手紙」の実践

未来の自分に着目するために、まず「みんなにとって、大人とはどのような存在ですか」と問いかけた。すると、資料5のように「何でもできる」「物知り」「経験していることが多い」など、今の自分には、足りない力をもった存在として捉える姿が見られた。また、「信用できる」「いろいろなことを教えてくれる」といった意見から、多くの人と関わりながら成長している存在であることにも気付くきっかけになった。そこで、「未来につながる仲間との時間を考えよう」と投げかけ、他者との関わりを通して自己の生き方をよりよくするための方法について考えられるようにした。

教材中の「小学生は、たった一回きり。すばらしい『とき』、すごい『とき』」という言葉に着目し、「すばらしい『とき』、すごい『とき』」を過ごすために、今できることは何があるかな」と問いかけた。すると、資料5のような意見が挙げられた。その中でも、資料6に示すように児童Aは「友達とたくさん遊び、運動、勉強ともに励まし合い、高め合う」「後悔しないように一日一日を大切に生活する」と記述し、他者との関わりを通して、自己の生き方をよりよくしようと考えていた。さらに、意見交流をとして、C4の「たくさん挑戦する」という考えを聞き、「よさを真似してもよい」と新たな考えをもつ姿も見られた。また、児童Bは「努力を積み重ねる」「みんなのためになるかを考えて行動する」と記述し、ひたむきに挑戦することや自分の気持ちだけで判断するのではなく、周囲のことも考えて行動することの大切さに気付いていた。このことから、友達の考えを取り入れながら自己の考えを広げたり、深めたりし、よりよい生き方について考えることができたといえる。その後、自己と他者との関わりを結び付けながらよりよい生き方について考えられるよう、めあてに立ち返り、「小学校生活最後の一年間を共に過ごす仲間の手紙を書こう」と提案した【手立て②】。資料7を見ると、児童Aは「一緒に後悔しないように友達とたくさん話し、励まし合い、時には真似をしながら」と積極的に他者と関わり、助け合いながら互いに高め合うことの大切さを捉えていた。児童Bは「毎日が楽しい後悔のない全力でやり切ったといえる一年間にしたい」「たくさんコミュニケーションをとって、全力で楽しんで、お互いを高め合っていこうね」と気付いたことや考えたことを互いに発信し合い、新たな価値観に触れながら成長していきたいという思いを表していた。このことから、自己と他者との関わりを通して、よりよい生き方を実現するために自分にできることを具体的に考えることができた。

第3時☆「教室は、間違うところだ」の実践（手立て②）

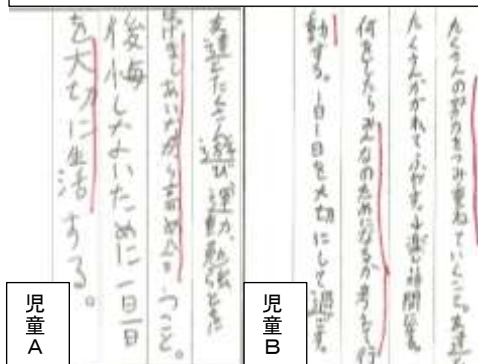
目標に向かって挑戦する中で、失敗から得ることについて考えられるよう、「教室は間違うところだ」の絵本を活用して実践を行った。挑戦することのよさや難しさを身近な問題として捉えるべく、発言することに着目して考えを深めることにした（資料8）。まず、手を挙げて発言することのよさについて考えると、「自分の意見を共有できる」「分からない子の手助けになる」「自信になり、次に生かすことができる」など自己や他者など様々な視点から意見が挙げられた。次に、発言することの悪さ（難しさ）について考えると、児童Bは「間違えたら嫌だ、恥ずかしい」「みんなの反応が心配」など、普段あまり発言できない理由を率直に書き記していた。一方、積極的に発言できる児童Aは、「そんなのない」と呟き、考えを書く手が止まっていた。しかし、資料9のT3「手を挙げるのが苦手な子の気持ちになってみて」という教師の声掛けを受け、「間違えたら恥ずかしい」「視線が怖い」と発言が苦手な児童の立場から考えを深める姿があった。このことから、自分とは異なる立場に立って考えることで、発言に対する様々な思いや不安を理解し、自己と他者の双方の視点から挑戦することの意味について考えを深めることができた。

最後に、挑戦することに対して失敗を恐れてほしくないという思いを込め、名言を書く活動【手立て②】を取り入れた。児童Aは「挑戦して失敗し

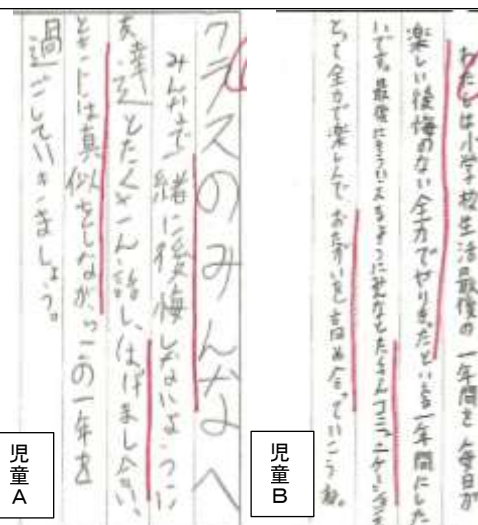
資料5 授業記録

- C1：何でも一生懸命にやる。
- C2：やりたいと思ったことを実践する。
- C3：苦手でも挑戦する。
- C4：たくさん挑戦する。
- 児童A：よさを真似する。
- 児童B：努力の積み重ねが大切。
- C5：目標をもつ。
- C6：目標をもって、それを守る。
- C7：今を大切にすること。
- C8：一日一日を大切にすること。
- C9：奥殿カレンダーを意識すること。
- C10：時間を守る。
- C11：人に善いことをすること。

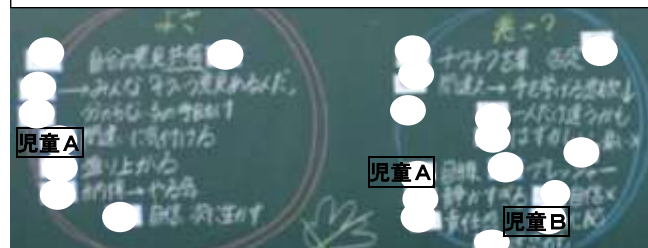
資料6 ワークシート記述



資料7 ワークシート記述



資料8 板書記録



資料9 教師と児童Bの会話記録

- 児童B：手を挙げることの悪さは、ない。
- T1：小さい頃は、手を挙げる時どう思っていた。
- 児童B：普通に手を挙げていたから分からない。
- T2：小さい頃から挙げていたんだね。
- T3：手を挙げるのが苦手な子の気持ちになってみて。

た方が自分のため」と書き、失敗を自分の成長につながる経験として捉えていた。また、児童Bは「みんな同じじゃなくていい。間違えてもいい、たくさん挑戦を」と書き、他者と異なる考えをもつことを認めるとともに、挑戦することの大切さを表現していた。つまり、児童は失敗を前向きに捉え、よりよい生き方につながる考えを深めることができたといえる。

第4時「大きな目標をもって」

まず、第1時で考えた未来像を提示し、自分が抱いている目標を再確認する場を設定した。また、「なりたい自分の姿に近づくために、今頑張っていることは何ですか」と問いかけた（資料10）。すると、児童Aは「誰とでも平等に接すること」、児童Bは「前より前に出ることをチャレンジする。苦手だったことも『少しはやってみる』と頭に入れている」と述べ、目標に対する現在の自分の行動や向かい方を振り返ることができた。そこで、「今の自分にできる努力と向き合おう」と提案し、まずは西山選手が積み重ねてきた努力について考えた（資料11）。教材を範読した後、「西山選手は、どのような努力をしてきたのだろう」と発問すると、「できそうにないことにもしっかり取り組む」「一球も無駄にしない」「目標を思い出して自分を励ます」などの意見が挙げられた。つまり、病気というハンデがあっても、自分にできる努力を積み重ねることの大切さに気付いていた。次に、「齋藤選手になぜ声をかけられたのだろう」と問い返した。資料12を見ると、「何でだろう」「上手だったから」「講演会にいったから」など、結果に着目した考えが多く見られた。しかし、T2の声掛けを受けて再度考えると、「ひたすらがんばっていた」「努力をした」など、自分の短所と向き合いながら目標に向かって努力を積み重ねた過程に着目する姿も見られた。また、資料11を見ると「好きなことが伝わった」「成長した」という意見も挙げられ、目に見えない努力を継続することが結果につながることに気付くきっかけになった。さらに、「西山選手のことどう思う」と問うと、「病気なのにすごい」「自分だったら諦めちゃう」と努力をすることのすごさを実感していた。また、児童Aは「自分も西山選手のようにになりたい」と憧れの対象として考えることができた。

その後、自分が思い描いた未来像に立ち返り、「今後どんな思いを大切に自分と向き合っていくか」と投げかけた（資料13）【手立て③】。すると、児童Aは「諦めずに自分の目標へ走り続ける思い」と目標を絶えずもち続けることの大切さを述べた。また、児童Bは「どれだけ大変なこと、大きな壁があっても諦めないで努力し続ける。どんどん高みを目指す」と挫折をしても、自分の成長を信じることの大切さを述べた。本単元の初めに考えたなりたい自分の姿との向き合い方（資料10）を比較すると、児童A、Bともに近づきたい理想の人を見つけたことで、なりたい自分の姿を明確にし、目標との向き合い方をより深く考えることができていた。このことから、目標を実現するまでの努力の過程に着目することで、自らの課題と向き合いながら、よりよい生き方を追究しようとする意識を高めることができたと考えられる。

その後、自分が思い描いた未来像に立ち返り、「今後どんな思いを大切に自分と向き合っていくか」と投げかけた（資料13）【手立て③】。すると、児童Aは「諦めずに自分の目標へ走り続ける思い」と目標を絶えずもち続けることの大切さを述べた。また、児童Bは「どれだけ大変なこと、大きな壁があっても諦めないで努力し続ける。どんどん高みを目指す」と挫折をしても、自分の成長を信じることの大切さを述べた。本単元の初めに考えたなりたい自分の姿との向き合い方（資料10）を比較すると、児童A、Bともに近づきたい理想の人を見つけたことで、なりたい自分の姿を明確にし、目標との向き合い方をより深く考えることができていた。このことから、目標を実現するまでの努力の過程に着目することで、自らの課題と向き合いながら、よりよい生き方を追究しようとする意識を高めることができたと考えられる。

随時「レベルアップ課題カード」【手立て③】

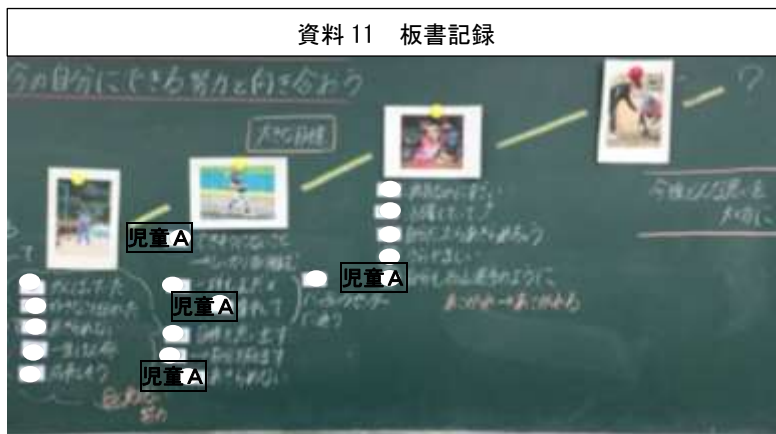
課題を単語帳形式のレベルアップ課題カードとして個別に保持させることで、児童が自己の課題を常に意識できる環境を整えた。さらに、2週間ごとの振り返りでは、課題の達成状況やその要因について考え、課題の継続・修正・更新を行うことで、自己の課題を主体的に見直し続ける力の育成を図った。また、振り返り際には、第1時で作成したなりたい自分カードを多面的・多角的な見方で見返す時間を設け、自己の課題や目標を見つめ直すことができたようにした。資料14が、児童A、Bの4月から7月までの間に作成したカードである。

これを見ると、児童Aは、他者との関わりに着目しながら課題を設定し、自ら話題をもち、壁を作ることなくこれまで話したことのない友達とも普段通りに話そうとすることの大切さを捉えていることが分かる。

資料10 ワークシート記述



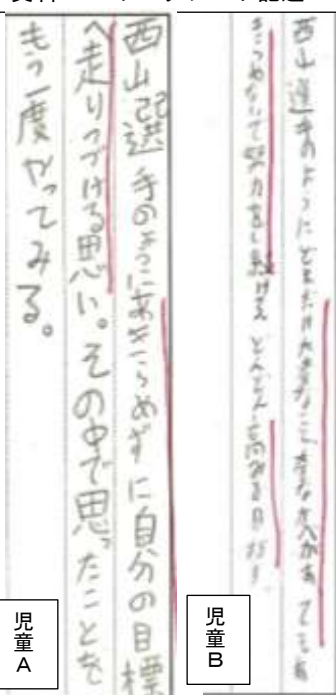
資料11 板書記録



資料12 授業記録

- T1：齋藤選手になぜ声を掛けられたのだろう。
 C1：何でだろう。
 C2：上手だったからじゃない。
 C3：講演会にいったからだ。
 C4：熱意が伝わった。
 C5：ソフトやっている人が少なかった。
 T2：みんなだったらどんな人をスカウトしたいと思う。
 児童A：たくさん努力をしてひたすらがんばっている人。
 児童B：努力をして頑張っている人。

資料13 ワークシート記述



児童 A

今月の課題【4月中旬～5月】

話題をたいてい持ちながら会話
100%, 会話量とされることなくしている
ことを言わせているから $\frac{5}{8}$

振と遅延

①今週の様子 ②できるよになってきた ③おきどきできた ④これかちがんでる
⑤気付いたこと、考えたこと、思ったこと

似さん長く言わせようになつた。
なんでもいいからたくさんのお話を聞きたい。

③来月について ☐このまま期間を続ける ☒新しい課題に変わる *7/17/2017*

兒童B

今月の課題 【6日】

發言をも、とる、やす。

20%

今までより少しだけ増えたけど、まだ全然。当てられたら言うことができるけど、自分からはあまり言えてないから。得意な教科だけでもいいからできるようにしたい。

今日の課題【7月】

発言をもとめ、自分の意見を対等に伝えたい。

今日の課題【7月】

たれとでも仲よくしていけるように言ふ

振返り

①今週の様子 ☒ できるようになってきた ☐ ときどきできた ☐ これからがんばる

②気付いたこと、考えたこと、思ったこと

たぐいの人と言語できるようになって、いつも話している友達のように
思っただくさん言語せた。 7/

④来月について ☐このまま課題を続ける ☒新しい課題に変える *多に手紙が来ると
おもしろいので*

振り返し【6月】

①今月の様子 ☐できるようになってきた ☐ときどきできた ☒これからがんばる

②気付いたこと、考えたこと、思ったこと

ゆへに本振りに近付いたと知つても増幅が弱いたと思つて、この前振に近付いたと知

愛は、なく、所詮、この世の敵対関係に過ぎない。それと知りながら、
是々を喰らった。

南無阿彌陀佛

③来月について ☒このまま課題を続ける ☐新しい課題に変える

その結果、日常生活においても、自分から積極的に友達に関わり、楽しそうに交流を深める姿が見られるようになった。児童Bは、自己の行動に着目しながら4月中旬からの課題を設定していた。時計を見て動くという課題をもち、日常生活では時計をこまめに確認し、自分から「1分前だよ」と友達に声を掛ける姿が多く見られた。また、6月から7月にかけての課題では、「発言」という項目は継続していたものの、6月の振り返りから第3時の学習を生かして、「自分の意見を伝えたい」という思いへと変化していることが伺えた。さらに、過去の自分と比較しながら自分の成長を実感する姿も見られた。このことから、課題を継続的に見直す機会を設けたことで、児童は自己の変容を実感しながら、自ら課題を修正・更新し、よりよい生き方に向けて主体的に行動することができたと考えられる。

4. 研究の成果

○仮説 1

第1時では、なりたい自分の姿を思い描くことで、自己を見つめ直し、自分のよさや課題と向き合うことができた。また、保護者や前担任からの思いを知り、それを自己の思いと照らし合わせる活動【手立て①】を取り入れたことで、多面的・多角的に自己を見つめ直し、資料4のように、児童Aは「自分から声をかける」児童Bは「学級や学校の思いを声に出して行動する」等と新たな課題を書き加え、自他の思いを踏まえた未来像を具体的に思い描くことができていたといえる。第2時では、小学校生活最後の一年間を共に過ごす仲間の手紙を書く活動【手立て②】を取り入れたことで、資料7のように、他者との関わりをよりよいものにしたいという思いをもつ姿が確認された。さらに、第3時では、絵本「教室は間違っている」を活用し、挑戦する中での失敗について考える活動を通して、資料8のように発言することのよさや悪さ（難しさ）を多面的に捉えることができた。また、教師の問い返しを通して、資料9のような自分とは異なる立場から考えを深める児童Aの姿や、名言づくりでは失敗を前向きに捉え、挑戦することの大切さに気付く児童Bの姿からよりよい生き方について考えを深めることができたことが読み取れる。以上のことから、自己と他者の視点を往還しながら自己を見つめる活動や児童の実態や課題に応じた教材や学習活動を工夫することで、多面的・多角的な見方から自ら課題を設定し、理想とする未来像の実現に向けたよりよい生き方について考えることができたことが伺える。よって、手立て①、②は、仮説1を検証する上で有効であったといえる。

○仮説 2

第4時では、努力を積み重ねてきた人物の生き方に触れた後、再び自己の課題と向き合うことで、資料13のように、自分にできることを考えながら目標に向かって努力することや目標を持ち続けることの大切さを実感する姿が見られた。また、レベルアップ課題カードを活用し、なりたい未来像に近づくための課題をスモールステップで設定・振り返る活動を継続したことで、資料14のように、自己の生き方を振り返りながら、自らのよさや課題を見つめ直し、課題を継続・修正・更新する姿が見られた。以上のことから、自己の課題を継続的に振り返る機会を設けることで、自ら課題を追究し、よりよい生き方の実現に向けて主体的に努力しつづけようとする意識を高めることができたと考える。よって、手立て③は、仮説2を検証する上で有効であったといえる。